（令和6年3月31日更新）

科目名	年次	区分	開講期	単位	教区目標・GIO	DP1				DP2			DP3			DP4	DP5	DP6
						薬剤師としての心構え	患者・生活者本位の視点	コミュニケーション能力	チーム医療への参画	基礎的な科学力	薬物療法における実践的能力	地域の保健・医療における実践的能力	研究能力	自己研鑽	教育能力	薬剤師として、持続可能な地域・社会の構築に貢献する医療人を目指す	薬学の知識と技術を基盤とした医療を提供し、実践的な医療人を育成する	チーム医療に関する基礎知識を習得し、疾患の特性と問題点を理解する能力
実務実習(薬局)	5	必修	前期・後期	10	GIO 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。	○	○	○	○		◎	○						
実務実習(病院)	5	必修	前期・後期	10	GIO 患者・生活者本位の視点に立ち、薬剤師として病院や薬局などの臨床現場で活躍するために、薬物療法の実践と、チーム医療・地域保健医療への参画に必要な基本的事項を修得する。	○	○	○	○		◎	○						
実務実習ポスト教育	5	必修	前期・後期	1	実務実習で体験した内容を他の学生と情報交換することで、学習成果を再確認することを目的に行う。小グループに分かれて、実習で体験したことをテーマにスモールグループディスカッション（SGD）形式で討議し、その結果を発表して総合討論を行う。さらに、実習で体験したことをテーマにポスター発表を行う。発表した内容はレポート（パワーポイント書式）として提出する。SGDおよびポスター発表は、薬局・病院それぞれの実習後に行い、それ以外のポスター発表には毎回教学者として参加し、質疑を行う。実務実習事前学習で再確認した基礎知識を、実務実習1、2で応用し実践できることを体験し、その体験を振り返り情報共有することで理解を深める。	○	○	○	○		○		○	○	○			
漢方処方解析Ⅰ	5	必修	後期	1	基本的な漢方処方を使えるようになることが目標です。 漢方医学は「随証治療」、「方証相対」医学であるといわれ、「証」と「処方」が密接につながっています。漢方処方解析学は、その本質証 概学であり、病態学であり、治療学を意味すると考えられます。そのため、証の見方をはじめ、生薬の薬効から処方構成の意義、組み立てる方針、臨床適応をしっかり理解していただきます。 本講義では、「傷寒論」の代表処方をはじめ、気血水の病理状態に用いられる処方を中心に解説します。												◎	
救急医療概論	5	必修	後期	1	医療人としての薬剤師にも緊急時の救急救命医療を行う知識が不可欠である。本教科では、救急救命の基本概念、取り扱う疾患や特色、医薬品や劇毒物の急性中毒時の症状、起因物質の検索、対処法について概説するとともに症例によって解説する。心肺蘇生（気道確保、人工呼吸、心臓マッサージ）などの救急での対応法や関連する薬物治療について学ぶ。症例によって、実際の救急事例やその際の治療、チーム医療の実態を学ぶ。また、災害時の薬剤師の役割や実例についても概説する。													◎
環境毒性学	5	必修	後期	1	授業の目的と概要：私たちは、生活環境に存在する化学物質、自然毒や食品由来の有害化学物質、また、感染症を引き起こす病原体に曝露されている。さらに、地球温暖化による気温上昇に伴って、熱中症による死亡事例も増加している。本科目では、特に近年、社会問題となっている環境要因による健康被害や、感染症の動向に関する情報を収集し、予防対策について考える。さらに、アクティブラーニングの一環として、各自課題を設定し、個別に探求・発表してそのフィードバックを得ることにより、公衆衛生の向上に貢献するための薬剤師の役割について考える。本科目で修得する基本的事項は、公衆衛生学（3年次前期）、環境衛生学I（3年次前期）、環境衛生学2（3年次後期）、衛生薬学実習（3年次後期）、衛生系薬学演習（4年次前期）で修得した「健康と環境」に関する内容を更に深く理解するために必要であり、薬学総合演習（6年次後期）の理解や実践の礎となる。 一般目標（GIO）：化学物質をはじめとする環境要因による生体への有害作用を理解し、健康寿命延伸の実現に向けた薬剤師の役割について考える。											◎		

各授業科目の、各DP小項目への貢献度の総和を100としたときに

◎　強く関わる（40以上）

○　関わる（40未満）